

◆ レジェンドマッチ ◆

帝京高校主将・藤倉寛（2008年から3シーズンアストラ倶楽部に所属）と暁星高校主将・玉田知也の1999年卒コンビが発起人となり、2013年にスタートした帝京OBvs暁星OBのレジェンドマッチ。毎年1月3日に開催され、2022年第10回を迎えた。第9回までの通算成績は暁星レジェンドが7勝1敗と大きく勝ち越している（第9回は新型コロナウイルスの影響で開催せず通算成績は8戦のカウント）。帝京レジェンドは昨シーズン限りで現役引退した元日本代表・田中達也氏も駆けつけ、「毎年のこのレジェンドマッチが自分のモチベーションとなっていた」と挨拶する一幕も。

試合は、暁星学園下のグラウンドでの9対9、7分×8本の変則マッチ。1本ごとに勝敗を決め、8戦終わった段階で勝利数が多いチームの勝ちとなる形式を採用。暁星レジェンド年上チームでは稲葉洸太郎（2001年卒）、玉田英史（2002年卒）を中心に、北村幸三（1991年卒）が攻撃にアクセントを加えてテクニカルな試合を繰り広げ、岡野宣正（1997年卒）榮良太（1998年卒）が高い決定力を見せつける。年下チームでは現役アストラ倶楽部メンバーの岡村悠矢（2013年卒）のポストプレー、2シーズン前の都1部アシスト王の林谷泰尚（2014年卒）の配球力に加え、中学教諭の吉田潤平（2006年卒）がキレのある動きを見せて帝京レジェンドを圧倒。結果、5勝2敗1分の成績で第10回も勝利を飾った。試合後は互いの栄誉を称え、両校の校歌斉唱を行い、来年の再会を誓って散会となった。